

弓馬故実礼法 武田流

日本古式弓馬術協会



弓馬故実礼法 武田流

鎌倉の武田流は、肥後熊本の細川家に伝わり竹原家が継承していた武田流を、明治維新後竹原惟路師の代見格であった肥後藩士井上平太師が旧藩主細川護久侯より継承を命ぜられ、その後昭和初期に、平太師直弟である金子有鄰師が相伝したものです。

爾来、有鄰師は、武田家に伝わる弓馬軍礼故実の相伝者として、又、伝統馬術の第一人者として、鎌倉扇ガ谷においてその道統の継承と伝統馬術の保存に尽力し、特に先師井上平太師より託された流鏑馬神事を広く天下に公開するという遺志の実現にその生涯を捧げられました。

武田流の流鏑馬は、今日においても武田信直公が記した、嫡流の秘伝「流鏑馬射法」に則り、大坪流馬術と武田流射術・日置流弓術を基礎として神事として執り行っています。

有鄰師歿後は、御子息である家教・家堅師がそれぞれ道統の継承・発展を図り、今、鎌倉の武田流は家堅師より相伝を受けた、伊村直也師範のもと弓馬故実礼法武田流一門として糾合され、金子有鄰師の遺志を継ぐ直系として鎌倉時代さながらの勇壮華麗な流鏑馬神事の奉納と伝統馬事文化の保存継承に努めています。